



2010年 第23号

ぞうえん山梨



平成21年8月5日、やまなし森づくり Kommission 会長を立会人に、増穂町と当協会では森林整備協定を締結し、11月21日には、当協会のオーナーと従業員が参加し、「ぞうえん山梨 きづかいの森」の枝打ち作業を行った。(詳細は4ページ)

- ごあいさつ2頁
- 協会の動き3~6頁
- 組合の動き6頁
- 青年部の活動7頁

- 平成21年度組合自主事業.....8頁
- 山梨緑化センター9頁
- 協会員・組合員めぐり・新入会員紹介 ...10頁
- 表彰等10~11頁
- 会員名簿12頁

(社)山梨県造園建設業協会・山梨県造園建設業協同組合

E-mail ● info@zouenkyo.ecnet.jp
U R L ● http://www.zouenkyo.ecnet.jp

E-mail ● kumiai@zouenkyo.ecnet.jp

ごあいさつ

造園建設業を取り巻く環境は、相変わらず厳しい状況が続いております。その厳しさに加えて政権与党である民主党が掲げる「コンクリートから人へ」という方針は、なお一段の公共事業の減少が懸念され、その影響は看過できないものとなってきております。

こうした状況ではありますが、「生き物・緑」を扱う唯一の建設業種である私たちには、「地球温暖化防止対策等の環境問題解決」や「美しい景観づくり」等々において、多くの果たすべき役割があり、私たちの努力いかんによっては活躍の場も広がるはずであります。それがまた私たちに対する社会・時代の要請であると考えております。

こうした観点に立ちながら我が協会では、昨年は、様々な事業を実施して参りましたし、本年もまた幾つかの事業実施が予定されております。以下に、それら事業の内、主なものを列記してみます。

平成21年8月5日には、地球温暖化防止や水源涵養など森林の多面的な役割の推進を行っている県が実施している「やまなしの森づくり」に参加することとし、山梨県森づくりコミッションの支援を受けて増穂町と当協会との間で森林整備協定を締結し、11月21日には全会員企業のオーナーと従業員が総出で森の手入れを実施しました。

8月24日には、横内知事に直接お会いして、協会としての陳情をさせて頂きました。県の発注見直し997件の内、造園工事業は僅か4件しかないという状況を訴え、特段の配慮をしてくれるようお願いしました。

9月2日には県と「防災協定」(名称：災害時にお

(社)山梨県造園建設業協会 会長 斉藤 陽一

ける資機材提供等の支援協力に関する協定書)を締結しました。この席で私は知事に、「防災という大事な業務に普段から研鑽を重ね、県からの要請がありましたら迅速に対応し、総力を挙げて精一杯の取り組みをする」ことをお誓い申し上げました。

11月17日には知事と(社)山梨県建設業団体連合会との意見交換会があり、この席で「全国都市緑化フェアの山梨県開催」の実現をお願い致しました。

その他、社会貢献活動として県市町村主催の河川清掃に参加しましたし、やまなしクリーンキャンペーンへの協力や「ぞうえん山梨 きづかいの森」の整備作業(前述)などを行いました。

そして22年には、協会の社会貢献活動として園庭の芝生化を行うこととしており、現在その実施施設の選定等、最終の詰めを行っているところであります。

本年はこうしたことに加え、従来から行っております街路樹剪定士や植栽基盤診断士等の資格取得の推進、また造園CPDの実施、さらに都市緑化フェアの視察等の研修会・講習会等を進めながら、会員の技能の向上を目指し、経営基盤の安定と成長に繋げて参りたいと考えております。

最後になりましたがこうした活動が一致団結して円滑に推進するよう、協会員の皆様のなお一層の御協力、ご支援をお願い申し上げ挨拶とさせていただきます。



山梨県造園建設業協同組合 理事長 小林 稔蔵

建設業をめぐる環境が依然厳しい状況が続いておりますが、逆境の時こそビジネスチャンスであり、地球温暖化防止が大きな課題となっている中でビジネスチャンスのキーワードは環境であると言えます。

我々の専門である緑づくりは、地球環境や生活環境を支える分野として期待され、多くの可能性・活路を持つ将来性豊かな若々しい環境産業であります。

以前は、地球温暖化の防止の視点から、山林の保全や整備に重点が置かれていましたが、最近では、屋上緑化や壁面緑化・緑のカーテンなど都市部を中心に身近な生活にさまざまな緑の取り組みが積極的に行われております。

ストレスの多い今の社会が、緑に癒しを求め、緑によせる期待が高まっていると感じているところであります。

造園業界として、社会の状況及び要請を的確にとらえ、社会への貢献を図りながら業界の発展につなげてまいりたいと考えております。

幸い、当組合の青年部という若い力が、分野を超え

て意欲的にさまざまな取り組みを行っております。組合、組合員の英知と青年部の若い力を結集し、新技術・新分野に積極的に挑戦して新しいマーケットの開発を図るなど活路を見いだす努力をしまいる所存でございます。

山梨県緑化センターは、新たな5カ年間の指定管理者としてスタートすることが出来ました。3年間培った経験・実績を踏まえて、新しい社会の要請に応じた管理運営と将来を担う若い世代を対象に緑環境教育の拡充を図り、県土の緑の保全や緑化の推進に一層の貢献を図りたいと考えております。

最後になりましたが、皆様方のご健勝、ご発展を祈念するとともに、今後とも、組合や緑化センターの運営にご支援ご協力をお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。



協会の動き

平成20年度 通常総会（予算総会・決算総会）開催

平成21年3月24日(火)午後3時から、当協会会議室に於いて、出席会員35名、うち本人出席28名、委任状による代理出席5名、表決会員2名を得て平成21年度通常総会(予算総会)が開催された。清水文一理事が司会を務め、斉藤陽一副会長の開会のことば、埴原喜久男会長の挨拶があり、来賓の山梨県議会議員高野剛様から祝辞を頂いた後、内田正文理事が議長に選任され直ちに審議に入った。第1号議案・平成21年度事業計画案、第2号議案・平成21年度収入・支出予算案を一括審議することとし、事務局説明の後、質疑に入ったが異議なしとして満場一致で可決承認された。次いで第3号議案・役員を選任についてが審議され、新役員が選出された後、別室にて理事会を開催し、会長、副会長を次のとおり選任した。

＜平成21年度役員＞ 会長：斉藤陽一、副会長：石原政人、専務理事：深澤勝彦、理事：内田正文、帯金岩夫、清水文一、須田良英、仲村清輝、埴原喜久男、依田忠、監事：岩田俊彦、野中昭夫



▲斉藤会長の挨拶

平成21年5月28日(木)午後2時30分から、当協会会議室に於いて、出席会員35名、うち本人出席30名、委任状による代理出席者5名を得て平成21年度第33回通常総会(決算総会)が開催された。依田忠理事が司会を務め、石原政人副会長の開会あいさつに続いて、斉藤陽一会長のあいさつがあった。その後、協会表彰規定に基づき造園功労者3名(久保田詰工氏、佐藤将氏、神宮寺清氏)に、会長から表彰状が贈呈された。

須田良英理事を議長に選任し直ちに議事に入った。第1号議案・平成20年度会務報告、第2号議案・平成20年度収入・支出決算の件は一括審議とし、事務局説明のあと岩田俊彦監事より「適正に執行されている」旨の報告がなされ、満場一致可決承認された。続いて第3号議案・総会議決事項の委任についてが提案されたが異議なく承認された。

災害時支援協定、県と締結



▲協定書を手に握手を交わす斉藤会長と横内知事

県との災害時支援協定(正式名称:災害時における資機材提供等の支援協力に関する協定)の締結は、かねてから懸案であったが、9月2日、県庁本館3階第一応接室において正式に県と締結を交わすことができた。

協定調印式には、県側からは横内正明知事、古賀浩史総務部長、清水文夫防災危機管理監、堀内浩将消防防災課長等が、協会側からは斉藤陽一会長、石原政人副会長、深澤勝彦専務理事が出席し、横内知事と斉藤会長が協定書に調印した。

協定の目的は、災害が発生した場合又は発生する恐れがある場合に、応急対策業務に係る資機材提供等の支援により、円滑な県民の救助活動及び災害復旧活動の遂行を図ることとなっている。

全国造園フェスティバル2009 事業に参加

日造協主催の「全国造園フェスティバル2009事業」が全国各地で開催されたが、本協会では10月24日(土)、25日(日)の両日、山梨県緑化センターにおいて開催した。同日は、同会場で、山梨県造園建設事業組合主催の「緑の感謝祭」も開催されたが、この祭に協力する形で参加する一方、同会場にコーナーを設けて啓発普及のチラシや花の種の配布などを行った。

大勢の来場者でにぎわった「造園フェスティバル2009」▶



「ぞうえん山梨 きづかいの森」活動開始

～増穂町平林自然塾で森づくり～



平成21年8月5日、当協会は、「やまなし森づくりコミッション」の森屋宏会長を立会人に、増穂町と森林整備協定を締結した。協定の締結は増穂町役場で行われ、増穂町志村学町長、やまなし森づくりコミッション森屋宏会長、当協会の齊藤陽一会長が協定書に署名した。「ぞうえん山梨 きづかいの森」は、増穂町平林にある増穂町有林で、5.1haの広さがある。齊藤会長は、協会の技術を活かして森づくりを進め、地球温暖化対策の一助となるよう努めて行くことと挨拶をした。

これをうけ、当協会では11月21日に会員120名が参加し「ぞうえん山梨 きづかいの森」の枝打ち作業を実施した。今回の作業は0.5haを峡南森林組合の講師もと行った。今後は、10年計画で枝打ち作業を行い、総面積5.1haの森林整備活動を行う。又、森林の間伐作業や自然塾周辺の整備にも協会の技術を活かして森づくりを進め、地球温暖化防止活動を推進して行く。



枝打ち作業状況

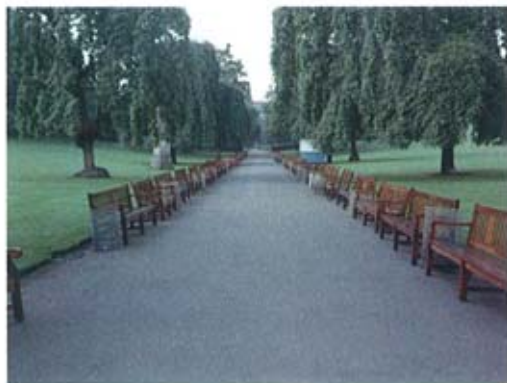


オープニングセレモニー

横内知事と意見交換会

～「都市緑化フェア」の開催を提案～

「知事と山梨県建設産業団体連合会（総合建設業団体代表者等並びに専門工事業団体等）との意見交換会」が、平成21年11月17日（火）、ホテル談露館において開催された。この会には横内正明知事をはじめ森林環境、農政、県土整備の公共事業の3部の幹部職員も出席し、横内知事が進行役となって意見交換を行った。当協会からは齊藤会長、石原副会長、深澤専務が出席し、齊藤会長から「全国都市緑化フェアを本県で開催してほしい」旨の意見を述べた。



これに対して県土整備部下田五郎部長は、「開催地によって規模も変わったり、いろんなパターンがある。新しい公園を造り、そのお披露目をかねて行うところもある。本県の場合、もし開催するとしたならば既設の公園を使って実施ということになろうと思う。資金面でどのくらい出せるかということで、規模も決まってくるであろう。都市緑化フェアは、平成23年までは開催地が決まっているので、その後ということになろうが、平成25年には国民文化祭が本県で開催されるため、さらにその後ということになろうと思われる。いろんな事情もあるし、そうならば専門スタッフも置かなければならないという問題や他部局との関係もあるので、ここで今答えることはできないが、今後検討をさせていただきたい」との回答があった。

中山間地域フォーラムinくまもとに参加して

平成21年10月10日に熊本県立大学にて開催された「中山間地域フォーラム」に出席してきました。本シンポジウムは中山間地域に内在する多面的機能に着目し、地域資源を活かした中山間地の再生を目的としたものでした。シンポジウムは基調講演、事例報告、パネルディスカッションから構成され、基調講演では前東京農業大学教授熊谷宏氏による「中山間地域の多面的機能とその保全、価値化」の発表がありました。事例報告では熊本県の中山間地域集落事例、阿蘇牧野組合の取り組み、農事組合法人の取り組み、企業CSRによる里山再生の事例等が報告されました。

現在、日本の国土において中山間地域は6割近くあり高齢化や過疎化、耕作放棄地の増加など多くの問題を抱えています。私たち造園業界の領域はこれまで主に都市部で多かったですのですがこれからは「地域再生」や「景観保全」「生物多様性保全」の観点から中山間地域における様々な取り組みに挑戦していく必要性を感じました。（山梨県景観アドバイザー・大塚広夫 記）



フォーラム会場

お知らせ!「街路樹剪定士認定試験」2月末実施予定

本県におけるこれまでの「街路樹剪定士の資格」取得者は140名余に達しており、県内の街路樹の整備等において街路樹剪定士は大いに活躍をしています。

この資格は、近年、発注側にあっても重視する傾向が強まっており、全国各都府県や市町村において街路樹剪定士の常駐や指導、さらに街路樹剪定士の見本剪定実施等の特記仕様書に明記するところが年々増えてきています。

こうした中、当協会では㈱日本造園建設業協会山梨県支部と協力し、平成22年2月末に認定試験を実施する予定であり、現在その作業を進めています。この試験は受験資格を有する方であれば、協会員であることの有無にかかわらず、誰でも受験できます。詳細についてお知りになりたい方は、㈱日本造園協会のホームページをご覧ください。

■「街路樹剪定士」とは

「街路樹剪定士」は、「美しいまちの顔 街路樹」を守り育てる専門家です

美しい街づくりにおいて、欠くことのできない街路樹剪定。その剪定基準を明確にし、技術力をさらに向上させるために、日本造園建設業協会では1999年に「街路樹剪定士認定制度」を発足させました。

認定された街路樹剪定士は、樹木の生理・生態や街路樹に関する専門知識と、伝統的な職人芸とも言える技能を併せ持ったスペシャリスト。ひとりひとりが、街路樹の美観を維持し、機能・効用を最大限に発揮させるために必要な能力を十分に備えています。



■「街路樹剪定士」の仕事

街路樹の健康と美観を守り育てることが、「街路樹剪定士」の仕事です



街路樹の剪定は、伸びた枝をただ切り落とすだけでは充分とは言えません。街路樹の機能を十分に理解したうえで、その効用を最大限に発揮するよう適切な剪定をすることが必要です。

樹木は種類によって適した土地や成長・形態の特性が異なり、剪定に適した時期や手法もさまざまです。

また、それぞれの樹木には個体差があり、限られた都市空間においても常に成長し続けます。しかも、1本1本の樹木が端正に整えられていても、全体としての連続性・統一性がとれていなければ美しい街路樹とは言えません。

こうしたさまざまな要素や条件を踏まえたうえで、樹木の健康を守り、美しい景観を維持することが、街路樹剪定士の仕事です。樹木の生理・生態に関する豊富な知識と卓越した技術と技能を駆使して、優れた街路景観を創出・維持する役割を担っているのです。

「街路樹」の役割

1000年以上の歴史を経て、街路樹の役割はますます重要になっています。私たちが暮らす街に、美しい緑の潤いを与える街路樹。その歴史は古く、奈良時代に始まったとされています。

江戸時代には、幕府によるきめ細かな取り決めや指導が行われるようになり、街路樹の植栽技術や管理・運営の基礎が確立されました。

明治時代に入ると10種の樹種が選定され、本格的な街路樹計画が実施されるなど、現代に至るまで街路樹は1000年以上にわたって大切にされ続けてきました。

今、地球規模での環境劣化が問題視され、一方で身近な緑に安らぎを求める時代において、その必要性はますます高まっていると言えます。都市空間に自然の潤いを与え、その美しい景観が人々の心を癒すのはもちろん、二酸化炭素の削減効果、都市の冷却化、野生生物の拠り所としてなど、街路樹の役割は多彩に広がっています。

《樹形再生の実際例(イチョウ)》

(落葉期)



(展葉期)



「全国都市緑化フェア」山梨県開催に向けて

全国都市緑化フェアは、国民の都市緑化意識を高揚させ、また都市緑化に関する知識を普及させることにより、「みどり豊かで潤いのある地域づくり」に寄与することを目的に、1983年に大阪府で第1回目が開催され、以来毎年全国各地で開催されている、いわば「みどり」に関する地方博覧会とも言えるものです。

2009年には岡山県において第26回目が開催され、来年は奈良県での開催が決まっています。

地球規模での温暖化防止対策が講じられつつある現在、国民の「みどり」に寄せる関心度や期待感は益々高くなっており、本県においても自然環境等をテーマとしたイベントや公演会等が年間を通じて多数開催され、これに参加する県民の数も年々増加しています。

また、「美しい県土づくり」を提唱する本県においては、緑や自然環境という視点からの整備が求められており、それを実施していくことで生活環境は改善され、さらには地域の活性化や暮らしやすさ日本一にもつながるものと考えられます。

こうした状況にあって、本県で全国都市緑化フェアを開催することは、極めて大きな意義があります。

「全国都市緑化フェア」には、経済効果なども含め計り知れない大きな効果が期待でき、これまで開催した都府県等では有形・無形のすばらしい財産を得ることができたとのことであります。

我が協会では、そんなすばらしい「全国都市緑化フェア」を、本県に誘致していくお手伝いをさせていただきたいと考えています。

厳しい財政状況の時期ではありますが、都市緑化フェアの目的と効果を多くの方々にご理解いただき、近い将来に是非山梨県での開催が実現されますよう協会員一丸となって努力してまいることとしております。



“おかやま花だより2009未来へ”と題して第26回全国都市緑化岡山フェアが、平成21年3月20日～5月24日まで、メイン会場を岡山市西大寺地区、サブ会場を岡山城、後楽園、協賛会場2カ所として開催されました。主催は岡山県、岡山市、財都市緑化基金です。

メイン会場は、紡績工場跡地を利用した約350m×200mの敷地に、“新世紀のまち”、“花暮らしのまち”、“キッズガーデン”等、さらに“花と緑のテーマ館”があり、とても丁寧に管理された、ゴミ一つ落ちていないきれいな会場でした。ミニトレインが走っていて、子供達を飽かさせない工夫もしてありました。

訪れた時期が4月下旬ということもあり色とりどりの草花が満開で、美しい一言でした。惜しむらくは高木の活着状態が良好とは言えず、秋の落葉期を感じさせ、見栄えがしなくオープン直後に植栽したように見受けられました。工程的な問題があるのでは、と思います。

種々新しい造園材料が使われていましたが、エコにつながる古いものの再利用等も図られ、閉園後の撤去作業も効率良く、ムダが生じないような試みが随所に見受けられました。アクセスは、車利用の便は良いのですが、鉄道ですとJR岡山駅から約20分の西大寺駅からシャトルバス又は徒歩約30分と少々不便でした。

当県で開催となりますと、まず用地の確保が最大の問題になると思われませんが、車利用、鉄道利用等のアクセスを考慮すると自ずと開催場所も限定されるのではないのでしょうか。

また、開催期間中のメンテナンスは大勢の作業員が必要となるため、費用の面からもボランティアに頼らざるを得ないかと思えます。

何れにしても昨今暗いニュースばかりですので、近い将来“都市緑化フェア”を開催するという希望をもって頑張って行きましょう。

(榎富士植木 取締役山梨支店長 宮澤義明 記)

組合の動き

平成21年度 第23回通常総会開催

平成21年5月28日(金)午後4時から当造園建設業会館において開催された。

司会者依田 忠理事が開会を宣し、河野富重理事長の挨拶に続き、来賓の山梨県みどり自然課三井教年課長補佐及び山梨県中小企業団体中央会知見寺好幸連携開発観光部長からそれぞれご祝辞をいただいた後、議長に小林 洋副理事長が選任され審議に入った。

第1号議案 平成20年度事業報告・収支決算承認の件

事務局の説明の後、名取 満監事が監査報告を行い、これを議場に諮ったところ可決承認された。

第2号議案 平成20年度事業計画・収支予算決定の件

事務局の説明の後、これを議場に諮ったところ可決決定された。

第3号議案 役員改選の件

事務局の説明の後、指名推選することになり、選考委員により新役員が推選された。これを議場に諮ったところ全員当選人として決定した。

<新理事>和泉川渡/今井正行/内田正文/帯金岩夫/河野富重/小林稔蔵/斉藤陽一

堤 明伸/宮澤義明/三井兵部/依田 忠

<新監事>志村正起/名取 満

引き続き開催された理事会により、小林稔蔵理事長、内田正文副理事長、和泉川渡専務理事が選出されたことが報告された。

第4号議案 総会議決事項委任の件

事務局の説明の後、これを議場に諮ったところ可決決定された。

第5号議案 その他

平成21年からの山梨県緑化センター職員の就業規則等の内容の説明があり、了承された。

最後に小林稔蔵新理事長から挨拶があり、午後5時20分閉会した。

青年部の活動

やまなしクリーンキャンペーンへの参加

実施日：平成21年7月30日 AM7:00～AM8:30
活動場所：甲府駅北口・南口周辺
使用資材：やまなしクリーンキャンペーンチラシ・花の種・のぼり旗・ゴミ袋
参加者：山梨県森林環境部循環型社会推進課再資源化担当者 3名
山梨県造園建設業協会・協同組合青年部 7名
活動内容：



作業終了後全員で記念撮影

甲府駅北口及び南口にてチラシ(県製作)と花の種3,000袋(青年部準備)を駅利用者に配布しました。

目的としまして、私達青年部は、地球温暖化が叫ばれている今、みどりを扱い環境や景観・美観を創造する造園業の使命は、大きくなっていると自覚しております。今回花の種を配布するのには2つの願いが込められています、草花の生育にはCO2の吸収を行いますので身近に環境改善に参加出来ることです、もう一つは花が咲く事により、「美しい県土づくり」の一助になることであります。

当日、NHKテレビの取材もあり、当日のお昼と夕方のニュース番組に配布風景が放映された事によりなお一層のPRが出来たと感じました。

一造会 海の森 現場見学会

日時：平成21年6月19日 13:00～17:00
会場：海の森みどりの資源化センター／海の森公園
参加人数：15名
主催：一造会(全国一級造園施工管理技士の会)
内容：剪定枝葉堆肥化事業について



植栽地の風景

東京都大田区東海二丁目4番8号に東京都港湾局から用地を借りて、(株)東京都造園緑化業協会が「海の森みどりのリサイクルセンター」を建設し、東京都内の公共施設から発生する剪定枝葉を一般廃棄物として有料(14.5円/kg)で受入れ、破碎して堆肥を製造しています。そして、堆肥の受け入れ先は、後述の「海の森公園事業」となります。

海の森計画地は、中央防波堤内側埋立地の東側で、面積は約87.9haです。東京オリンピックの一部競技の会場予定地になっています。昭和末期に都内で発生したゴミ約1,230万トンで埋め立てられた土地で、ガス抜きがほぼ終了し、現在は建設発生土にて覆土をしながら、前述のリサイクルによる堆肥を、建設発生土や赤土に混ぜて植栽基盤をつくっています。

植栽基盤づくりが終了した場所には、都民・企業・NPOなどの参加により、ドングリから育てた苗木を植栽したり、都内で不要になった樹木を移植したりして自然再生を行なってゆく計画です。

門松講習会

実施日：平成21年10月21日
活動場所：山梨県緑化センター
参加人数：15名
使用材料：門松(基本型2対、武田流1対)
作成材料一式
活動内容：榊園松園小林稔蔵先生のご指導の元、門松(基本型2対、武田流1対)を作製し、座学を1時間、実技を4時間行いました。



ワラすぐりの状況

ワラすぐり(稲ワラを綺麗にする事)から始め、竹を立てて土台の部分の作成、土台にワラを播き荒縄で締める、荒縄の巻き方も7回・5回・3回と緑起の良い数字にします、緑の部分を読み、根元部分に装飾をして完成になりました。

現在では施工することが少なくなった伝統的な造園技術に少しでも触れる機会を作るために実施しました。特に武田流門松は、ほとんどの方が初めての作製であり携われたことはとても良い経験となりました。

平成21年度組合自主事業

山梨県造園建設業協同組合では過去3年間の実績を踏まえ、指定管理者として新たな事業展開を計画し充実した企画で質の向上、来園者数の増加を誇って参りました。

今後もなお一層努力し県民の皆様方の期待を裏切らないよう努めて参ります。

関係各位、多くの県民の皆様方の暖かいご支援ご協力をお願いすると共に更なる施設のご利用をお待ち致しております。



●●●山梨グリーンフェア●●●

4月25日から26日まで山梨グリーンフェアを開催した。植木市には組合加盟35社が参加。樹木・草花・鉢物・園芸資材・野菜苗等の販売を行った。また同時開催として「お茶会」も開催され、表千家古屋園恵先生(甲斐市文化協会)が亭主を務め、組合事務局中村麗子さんが代表を務める中村麗声社中の奏でる琴の音色の中で子どもからお年寄りまでお茶を楽しんだ。初日は雨模様だったが、2日間で5,600人の来場者を集め賑わった。

●●●初夏を彩る展示会●●●

第1弾として6月5日から3日間「バラ展」と「山野草展」を同時開催した。「バラ展」はローズアドバイザー後藤みどりさんが四季咲きローズ300鉢の展示とガーデンテラスのアレンジメントを行った。「山野草展」は甲州市文化協会山野草小物盆栽部がアジサイ等200鉢を展示した。第2弾として6月19日から3日間「盆栽展」と「ウチョウラン展」を同時開催した。「盆栽展」は甲斐市文化協会が樹齢100年の松等30鉢、「ウチョウラン展」は昇仙峡山草会が150鉢を展示した。訪れた人は手塩にかけた作品に見入っていた。



●●●ミニガーデンコンテスト●●●

10月、一般公募の中から優秀作品5点(山梨県立農林高等学校造園緑地科、清水嘉文(甲府市)・張志剛(甲府市)共作、甲南緑化棟、中央造園土木棟、河野造園土木棟)を緑化センター内に製作した。10月24日審査の上、最優秀賞に河野造園土木棟のテーマ「光湧水」が選ばれた。展示は12月末まで行われ、多くの人が自宅の庭の参考にと訪れた。

●●●緑の感謝祭●●●

10月24日から25日まで緑の感謝祭を開催した。組合員により樹木、花、園芸資材、農産物等の販売を行った。恒例の「もちつき大会」も行われ、子どもたちの人気を集めた。同時開催として「全国造園フェスティバル2009」「ポニー乗馬体験」「子ども工作教室」「山野草と実もの盆栽展」「洋蘭展」「動物ふれあいコーナー」等も開催され、県内各地から多数の人が来園した。



●●●みどりの写真コンテスト●●●

「第4回みどりの写真コンテスト」を開催。6月から出品を募った。「樹木」「私の好きな庭」「風景」の3部門で作品を募集した。銘木、奇木、花、印象に残る庭、山梨の豊かな自然を繊細な感性で捉えた優秀な作品等、182点の応募があった。写真家若林賢明先生を審査委員長として、みどり自然課長にも参加して頂き審査を行ない、各部門の知事賞、優秀賞が決定され11月13日から15日まで作品展示会を開催し、受賞作品は緑化センターに通年展示されている。

●●●洋蘭展

平成22年1月14日から17日まで開催予定。

●●●その他研修会

やまなし緑サポーター会、小学校等の依頼により樹木医を講師として派遣した。各種4団体から依頼を受け「寄せ植え研修会」等を開催した。

平成21年度山梨県緑化センター主催事業

平成21年4月1日から新たに指定管理者として5年間の施設の管理運営を委託されました。多くの参加者を集めている「緑の教室」をはじめ緑化相談、緑サポーター養成研修等県民の皆様方のニーズに充実した内容で応えて参りました。今後も環境に配慮した緑化等多くの情報を発信し、来て見て体験し楽しく学べる施設の存在意義を高めるよう努力致して参ります。

多くの皆様方のご利用をお待ち致しております。



●●●●●緑の教室●●●●●

「緑の教室」は県民の皆様が緑の大切さや親しみ方などを提案し、緑についての知識や技術を身につけて頂くため年24回実施しております。内容も「庭木の手入れ」「松」「病虫害」「花の寄せ植え」「ガーデニングの基礎」「バラ」「洋ラン」「盆栽」「防寒対策」等種々多様なカリキュラムを組み展開しております。

受講者は年々増加し21年度は1,000人を見込んでいます。

講師陣には組合関係者も延べ13名含まれており、組合と協力して盛り上げております。

この教室で学んだ知識・技術を、生活の中に生かし、「防寒対策」研修風景緑化思想の高揚に繋がることを期待しています。

●●●●●親子緑の集い●●●●●

森からの恵み（森林資源の有効利用）による工作の学習等、親子のふれあいの場を提供し、緑への親しみを深めるため、みどりの募金を運営費として4回実施されました。

第1回目は「山梨県産の木を使った木工工作」と題し山梨県産ヒノキを使ってグライダーを作りました。第2回目は木の枝や木の実を使って壁掛けフォトフレームを作りました。第3回は緑化センター内の森の中でツリークライミングを体験しました。第4回はもみの木・ヒラギの葉等を使いクリスマスリースを作りました。

申し込み開始日の30分間で定員に達することもある盛況ぶりで、全4回で173組444名の親子が参加しました。



●●●●●子ども樹木博士●●●●●

近年、地球の温暖化防止、山地災害防止、水源のかん養など森林の役割が見直されている中で、森林の中で樹木に触れて名前を知ることを通じて、子供たちが森林や自然に関心を深めること、さらには子供と親とのふれあいの場を提供することを目的とし、県緑化センターと河口湖フィールドセンターを会場として2回実施されました。親子で樹木の名前や特徴を学び最後にテストを行い成績により10級から4段までの「樹木博士認定書」が授与されます。平成21年度は50名の子どもたちが樹木博士となりました。

●●●●●緑サポーター養成研修●●●●●

緑化に関心の高い県民を対象に、地域内の緑化の推進、樹木の診断を行なう者を養成するため緑サポーター養成研修を実施しています。研修修了者には終了証書が授与されるとともに、勸日本緑化センターに登録すると「緑サポーター」の称号が与えられます。

平成21年度は24名が緑サポーター登録しました。昨年度発足した「やまなし緑サポーター会」も講習会や現場研修等、積極的な活動を展開しております。

協会員・組合員めぐり

株式会社 津々美造園

代表取締役 堤 明 伸
所在地 甲府市愛宕町146番地

創業明治15年、甲府市でも老舗の植木屋です、地球環境の変化が叫ばれている中で、樹木にもストレスがあります。

喻えですが「木が風邪を引く?」、人を例にした場合、寝不足が続いたことから体力が弱り風邪を引きます。樹木も毎年の気温の変化や降水量などの気象や病害虫などにより少し疲れたときなど、落葉したり葉色に変色したり必ず兆候があります、この早めのサインを見逃さず処置が必要となりますので観察してみてください、「お客さまの大切な樹木を守り抜く造園家」を基本に社員一同努力していく所存であります。



株式会社 仲村造園

代表取締役 仲村 清 輝
所在地 北杜市明野町小笠原3838

当社は、大正14年先々代仲村清三により仲村造園を創業し、先代仲村清治により平成6年に法人化をはかり平成13年組織変更を行い株式会社仲村造園とし現在に至ります。

創業時より「時を重ねるほどに愛される庭づくり」を目指し、変遷を遂げる時代のニーズに応えるべく事業展開しています。

世界が緑を今まで以上に必要としました重要視しているこの時代こそ我々の造園業界が輝ける時代だと確信し、未来永劫の課題である緑の創造・継承をより一層強く進めるべく社員一丸となり邁進しているところであります。



表 彰 等

協 会

●(社)日本造園建設業協会会長賞 (業績表彰)

当協会理事今井正行氏は、平成21年6月22日(日)、ホテルボール麴町において開催された平成21年度(社)日本造園建設業協会通常総会において協会会長賞(業績表彰)を受けた。氏は、父の経営する今井ガーデン(平成2年に有限会社今井ガーデンに名称変更)に入社以来、40年近くもの長きに亘って造園業一筋に携わっており、平成16年2月からは同社の代表取締役に就任し、経営者として手腕を発揮している。

今井正行 氏
㈱今井ガーデン



これまでに山梨県小瀬スポーツ公園や山梨県御勅使公園、さらに国道41号線(国玉町地内)、日本銀行甲府市店等の植栽工事を手がけるなど多くの優れた実績を残している。氏は、平成17年、18年の2年間山梨県造園建設業組合の監事を経た後、平成19年からは理事に就任し組合運営に精力的に取り組んでいる。また、氏は、平成17年からは街路樹剪定士の指導員として活躍している。本業の造園業はもとより、上記のような支部活動等を通じての環境緑化への貢献度は極めて高いものがあり、こうした実績が認められたものである。

●(社)日本造園建設業協会会長賞 (業績表彰)

須田良英 氏
㈱須田造園



当協会理事・総務委員会委員長須田良英氏は、平成21年6月22日(日)、ホテルボール麴町において開催された平成21年度(社)日本造園建設業協会通常総会において、協会会長賞(業績表彰)を受けた。氏は、大学卒業後、父の経営する(株)須田造園に入社し、以来、一貫して造園業に携わっている。昭和62年には(株)須田造園の専務取締役に、平成15年からは同社の代表取締役に就任し現在に至っている。氏はこれまで道路の植栽工事を中心に多くの公共事業を手がけているが、その一方で昭和大学薬学部薬草造園工事や「茜どき」石和造園工事など民間工事も手がけ、高い評価を受けている。

平成11年から16年まで、(社)山梨県造園建設業協会青年部の理事に就任し、平成16年度には、浜名湖花博・「ジャパンフラワーフェスティバル」に青年部の中心メンバーとして作品を展覧した。翌17年からは(社)山梨県造園建設業協会総務委員会副委員長に、平成19年度から20年度は、山梨県造園建設業協同組合の理事に就任し活躍している。なお、今年度からは(社)山梨県造園建設業協会理事に就任し、現在は総務委員長を務めている。

緑化推進に関わるこうした貢献・功績が認められたものである。

表 彰 等

●山梨県 環境緑化功労賞

清水文一 氏
南清水造園



平成21年度山梨県林業まつり（山梨県林業まつり実行委員会〈会長 横内正明〉主催）が開催され、清水文一氏が山梨県環境緑化功労賞を受けた。（10月8日に予定されていた記念式典は台風接近のため中止）

氏は、父の経営する清水造園に就職し、昭和59年には会社を法人化させて代表取締役役に就任、現在に至るまで一貫して造園業に携わり、あけぼの医療福祉センター植栽工事等数多くの造園工事を手がけている。平成7年度からは、山梨県造園建設業協会の理事に就任し、その間、事業委員長を6年、技術委員長を3年務め、造園協会の発展に貢献した。1級造園施工管理技士等幾つもの資格を有しており、平成19年には「やまなしの名工」として表彰されるなど、技術力は高い評価を受けており、その一方で街路樹剪定士の指導員を務めるなど、本県の緑化推進（環境緑化）に果たした功績は大きいとして表彰された。

●建設雇用改善優良事業所 山梨県建設産業団体連合会長表彰

株富士グリーンテック
代表取締役 斉藤陽一



平成21年度山梨県建設雇用改善推進大会が平成21年11月14日（金）、アピオ・ウェディングプラザ甲府で開催され、この席上株富士グリーンテックは、建設雇用改善優良事業所として山梨県建設産業団体連合会長表彰を受けた。

当社は、雇用改善の重要性を不断に認識し、従業員に対する労働条件の明示や法の遵守、さらに安全衛生管理等々に積極的に取り組んでいるが、特に、社員の能力開発への取り組みに力を入れており、国家資格や認定資格等を積極的に取得させている。こうしたことが認められ表彰された。

●造園事業功労者

平成21年5月28日（木）、当協会会議室に於いて開催された平成21年度通常総会の席上、上記3氏が「造園事業功労者」として表彰された。各氏とも、会員会社の社員として造園事業に携わっているが、その功績が顕著であり他の模範であるとして表彰された。

神宮寺 清 氏 久保田 詰工 氏 佐藤 将 氏
株富士グリーンテック 株石原グリーン建設 株石原グリーン建設



組 合

●山梨県技能者表彰 （山梨の名工）

名取 満氏
株東香園



平成21年11月26日（木）山梨県中小企業人材開発センターにおいて、日本庭園の伝統技術を受け継ぎながら、現代社会の要請を的確に捉えた新しい感性の庭園技術及び伝統技術の後継者育成、また、古木・巨木など貴重な天然記念物や地域の文化財の管理保護技術が、卓越した技能者として認められ、やまなしの名工として表彰を受けられた。

●山梨県中小企業団体中央会感謝状

河野富重 氏
河野造園土木株



平成21年6月8日アピオウエディングプラザ甲府で開催された山梨県中小企業団体中央会第54回通常総会において、組合理事長として、組合の組織強化と発展及び組合員の相互扶助と経済的地位の向上に尽くされた功績に対して、中央会会長より感謝状が贈呈された。

●山梨県中小企業団体中央会表彰

内田正文氏
株東勝緑産



平成21年6月8日アピオウエディングプラザ甲府で開催された山梨県中小企業団体中央会第54回通常総会において、長年にわたり組合の役員として、組合諸事業の企画・運営及び緑化センター指定管理者としてセンターの管理運営に主導的役割を果たし、組合員の指導育成、組合の強化発展に貢献されたことに対し、組合功労者として表彰を受けられた。

●山梨県中小企業団体中央会表彰

仲村清輝 氏
株仲村造園



平成20年5月26日アピオウエディングプラザ甲府で開催された山梨県中小企業団体中央会第54回通常総会において、当組合青年部長として、各事業や研修会を企画・開催して若手技術者の育成に尽くし、また、緑化センター自主事業「山梨グリーンフェア」「収穫祭」業務責任者としての業績が認められ、青年部功労者として表彰を受けられた。

会 員 名 簿

(50音順)

会 社 名	代表者名	住 所	電話番号/FAX	E-mail/URL
(株)アセラグリーン	埴原喜久男	甲府市蓬沢町1171	(055) 233-4617 (055) 233-4633	green@acera-jp.com http://www.aceragreen.com
(株)雨宮造園	雨宮 憲二	甲州市塩山千野1210	(0553) 33-4048 (0553) 33-8039	amemiya@deluxe.ocn.ne.jp
(株)石原グリーン建設	石原 政人	甲府市高室町269	(055) 241-2001 (055) 241-0822	office@green21.co.jp http://www.green21.co.jp
(株)石和植木	齊藤 隆夫	笛吹市石和町川中島378	(055) 263-2070 (055) 262-4889	isawa@mbd.nifty.com
(有)今井ガーデン	今井 正行	甲府市里吉一丁目6-24	(055) 237-0027 (055) 226-8788	garden-imai.yugen@abelia.ocn.ne.jp
(株)雲松園	小林 稔蔵	北杜市小淵沢町3630	(0551) 36-2432 (0551) 36-4128	info@unshouen.co.jp http://www.unshouen.co.jp
(株)帯金造園	帯金 岩夫	甲府市池田二丁目11-12	(055) 251-4128 (055) 251-4194	office@obikane.co.jp http://www.obikane.co.jp
(有)萩野造園	萩野あさ子	甲府市伊勢四丁目1-12	(055) 235-4045 (055) 231-2020	ogino@peach.ocn.ne.jp http://www4.ocn.ne.jp/~ogino
(株)河口湖庭園	梶原 陽一	南都留郡富士河口湖町船津4940-1	(0555) 72-0635 (0555) 72-5435	yozan@kawaguchiko.ne.jp
(有)窪田造園	窪田 健司	甲斐市中下条1673	(055) 277-2111 (055) 277-8881	kubotazouen@za.wakwak.com
河野造園土木(株)	河野 富重	甲府市下飯田二丁目5-27	(055) 222-4396 (055) 222-0555	info@kzd.co.jp http://www.kzd.co.jp
甲南緑化(株)	岩田 俊彦	甲府市高室町721	(055) 241-6136 (055) 241-6135	kounan@maple.ocn.ne.jp
(株)三枝造園	三枝 正雄	富士吉田市松山1267-6	(0555) 22-1174 (0555) 22-2219	saigusazouen@r4.dion.ne.jp
三協造園(株)	八木 幸彦	西八代郡市川三郷町市川大門4796	(055) 272-6000 (055) 272-7777	mail@sankyo-ls.co.jp http://www.sankyo-ls.co.jp
(有)サンリツ造園土木	土屋 潤一	中央市若宮31-11	(055) 273-8644 (055) 273-8633	sanritsu-2006@topaz.plala.or.jp
(有)敷島緑化土木	石水 理恵	甲斐市島上条1664	(055) 277-2530 (055) 277-8311	sryokkas@cronos.ocn.ne.jp http://www15.ocn.ne.jp/~sryokkas/
(有)清水造園	清水 文一	甲府市里吉一丁目7-21	(055) 233-9748 (055) 233-9758	shimizu.z@sea.plala.or.jp
(株)芝 保	藤原 辰男	甲府市貢川本町18-20	(055) 237-7000 (055) 224-5555	shib0377@peach.ocn.ne.jp http://www3.ocn.ne.jp/~shibaho
(有)志村樹苗園	志村 好啓	甲府市緑が丘一丁目4-4	(055) 253-6983 (055) 253-6985	shimura.sdv4@rouge.plala.or.jp
(有)須田造園	須田 良英	笛吹市八代町米倉729	(055) 265-2452 (055) 265-3691	suda@arion.ocn.ne.jp http://www.land-s.co.jp
中央造園土木(株)	今村三紀男	甲府市德行一丁目9-27	(055) 226-4525 (055) 226-4573	czd@maple.ocn.ne.jp
辻緑化土木(株)	辻 宏三	甲府市朝気三丁目3-16	(055) 233-9545 (055) 233-9542	info@tsuji.ecweb.jp http://www.tsuji.ecweb.jp
(株)津々美造園	堤 明伸	甲府市愛宕町146	(055) 253-2188 (055) 253-7835	tsutsumi@mx10.ttcn.ne.jp http://www.tsu2mi.com
(株)東勝緑産	内田 正文	甲州市勝沼町等々力1258-2	(0553) 44-2691 (0553) 44-3006	toukatsu@crux.ocn.ne.jp
(有)東香園	名取 満	南アルプス市十日市場1828-1	(055) 282-0970 (055) 282-0952	tou-kou@eps4.comlink.ne.jp
(株)仲村造園	仲村 清輝	北杜市明野町小笠原3838	(0551) 25-2348 (0551) 25-2439	naka-la1@aurora.ocn.ne.jp
野尻造園建設(有)	野尻 積道	韮崎市穂坂町宮久保5122-2	(0551) 22-0615 (0551) 22-2531	h-nojiri@amber.plala.or.jp
(株)富士植木山梨支店	宮澤 義明	山梨市上栗原945	(0553) 23-1575 (0553) 23-1550	yamanashi@fujieki.co.jp http://www.fujieki.co.jp
富士観光開発(株)	志村 和也	南都留郡鳴沢村字富士山8545-4	(055) 273-5753 (055) 273-4919	kensetsu@fujikanko.co.jp http://www.fuji-net.co.jp/
富士急建設(株)	小俣 賢治	富士吉田市新西原五丁目2-1	(0555) 22-7151 (0555) 22-7153	fken@fujikyuu-kensetsu.co.jp http://www.fujikyuu-kensetsu.co.jp
(株)富士グリーンテック	斉藤 陽一	甲府市富竹三丁目1-3	(055) 236-1600 (055) 224-5520	fujit@mx.mesh.ne.jp http://www.fujigreentech.jp/
(株)明桃園	小林 洋	南アルプス市桃園968	(055) 282-4128 (055) 282-4190	meitoen@khaki.plala.or.jp
山梨ガーデン(株)	依田 忠	南巨摩郡増穂町最勝寺1514	(0556) 22-4181 (0556) 22-2359	y.garden@cronos.ocn.ne.jp
(有)山宮造園	山宮 一哲	甲府市大里町3608	(055) 241-2256 (055) 241-2078	yamamiya@kvj.biglobe.ne.jp
(有)吉井造園	吉井 公人	甲斐市西八幡4044-6	(055) 276-0470 (055) 230-6322	Yoshii-zouen@ag.wakwak.com